

# 農業の新しい技術

586 (平成20年 7月)

分類コード 01 - 04

熊本県農林水産部

## 県育成ニガウリF<sub>1</sub>品種「熊研BP1号」は 抑制栽培にも適する

農業研究センター 農産園芸研究所野菜研究室  
担当者：林田慎一

### 研究のねらい

本県では、平成17年に多収で果実形質が優れ、苦みの少ないニガウリ品種「熊研BP1号」を育成した。この品種は従来からの本県の主力作型である半促成栽培に適するが、抑制栽培における特性は不明である。そこで、「熊研BP1号」の抑制栽培における収量性や適応性について明らかにする。

### 研究の成果

- 1.商品果収量は本数、重量ともに県内主要品種「えらぶ」より多い。また、商品果率と秀品率は「えらぶ」と同程度が高い。さらに、生育前半の高温対策を実施することで商品果率や秀品率は高くなる(表1)。
- 2.商品果収量は9月と10月に多く、気温の下がる11月には少なくなる。商品果率は、高温期に着果した8月と9月では低いが、その後は高くなる(図1)。
- 3.一般に、高温期にはニガウリの雌花着生は少なくなるが、当品種の雌花着生は生育初期から後期まで「えらぶ」より多い(図2)。

### 普及上の留意点

- 1.定植後は高温となり茎葉の焼けが発生しやすいため、当初露地状態にしたり遮光等の降温化対策を図る。
- 2.着果初期は訪花昆虫による自然着果が多いので、草勢を維持するために摘果を行い着果数を制限する。

表1 抑制栽培における収量

(10 aあたり)

年	品 種	総収量		商品果収量		商品果率 重量比 (%)	秀品率 重量比 (%)	商品果 一果重 (g)
		果数 (本)	重量 (kg)	果数 (本)	重量 (kg)			
H17	熊研BP1号	16,100	3,672	13,800	3,269	89	57	237
H17	えらぶ (対照)	9,700	2,470	8,000	2,142	87	55	268
H18	熊研BP1号	13,283	3,536	12,550	3,402	96	81	271

注) 商品果は秀品および優品の合計

H17 : ガラスハウスで加温栽培、最低気温15℃設定  
 定植は7月21日、収穫期間は8月31日から11月29日まで  
 H18 : ビニルハウスで無加温栽培、初期は露地状態  
 定植は7月24日、収穫期間は9月2日から11月30日まで

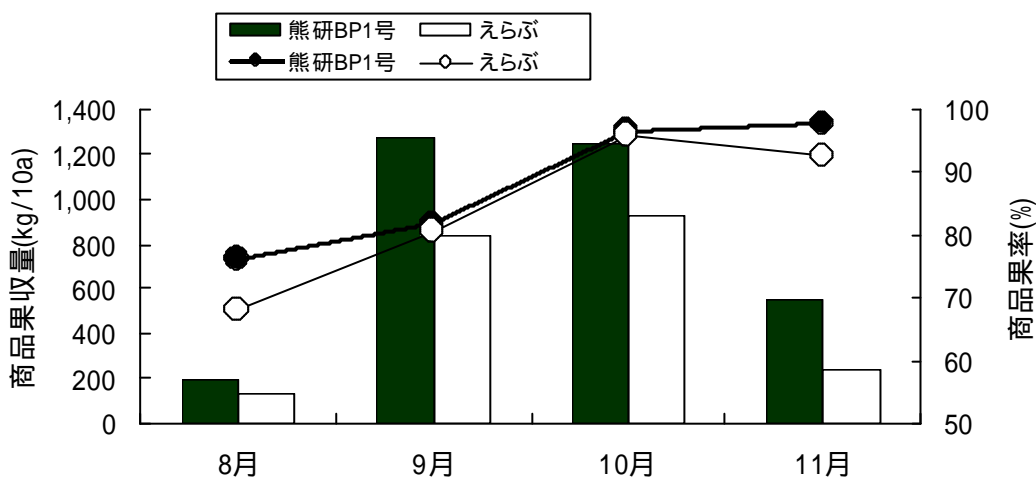


図1 抑制栽培における時期別の商品果収量 (棒) および商品果率 (折れ線) (平成17年)

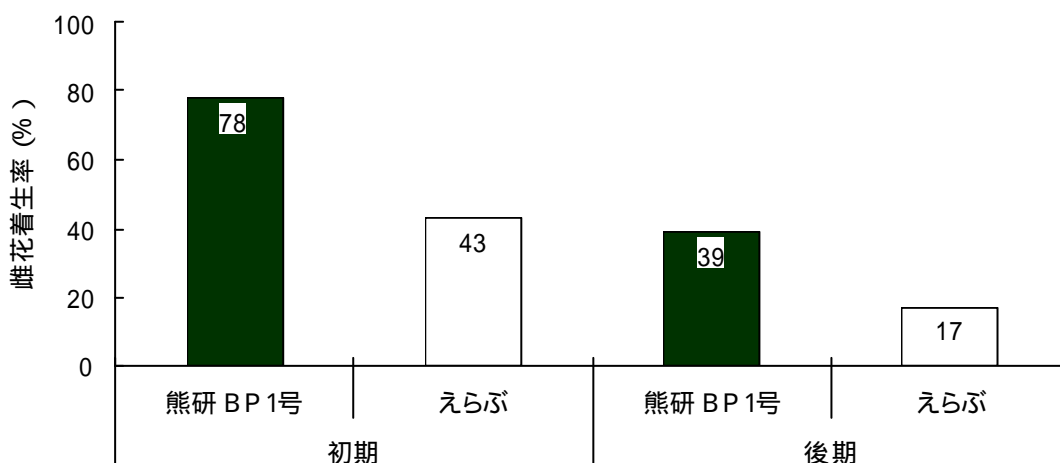


図2 抑制栽培における雌花着生率 (平成17年)

初期は子づる第25節まで調査、後期は10月31日に子づる先端25節を調査